



病院総合医 育成プログラム（カリキュラム）

育成プログラム

（カリキュラム）名：大同病院 病院総合医育成プログラム

施設名：社会医療法人 宏潤会 大同病院

事務局欄

本育成プログラム（カリキュラム）を「病院総合医」育成プログラム（カリキュラム）として認定します。

認定番号 第

18010080

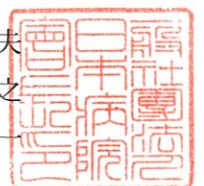
号

認定年月日：西暦

2018 年 **1** 月 **12** 日

一般社団法人日本病院会
病院総合医育成事業担当
病院総合医認定委員会

会 長 相 澤 孝 夫
副会長 末 永 裕 之
委員長 中 佳 一



大同病院 病院総合医育成プログラム（カリキュラム）

【概要】

近年、医療の専門化、細分化が進み総合的に患者の病態に対応することのできる医師の不足が指摘されている。その弊害は中小規模の医療機関において顕著であるが、多数の医師を要する大規模病院においても同様の状況にある。専門医を取得しない医師、専門医の資格があるが、キャリアの進行とともにジェネラルな診療を志す医師も存在する。このため、大同病院は一般社団法人日本病院会が認定する病院総合医を養成する育成プログラム（カリキュラム）を作成し、病院総合医を育成する。

【理念】

1. 病院において多様な病態を呈する患者に、包括的かつ柔軟に対応できる総合的診療能力を有する医師を育成する。
2. 必要に応じた複数の診療科、また介護、福祉、生活等の分野と連携・調整し、全人的に対応できる医師を育成する。
3. 地域包括ケアシステムにおける医療と介護の連携の中心的役割を担うことができる医師を育成する。
4. 多職種をまとめチーム医療を推進できる医師を育成する。
5. 総合的な病院経営・管理の能力があり、病院だけでなく地域の医療にも貢献できる医師を育成する。

【到達目標】

高い倫理観、人間性、社会性をもって総合的な医療を展開する病院総合医として、次の5つのスキルを身につけることを到達目標とする。

○ インテグレーションスキル

多様な病態に対応できる幅広い知識や診断・治療によって包括的な医療を展開・実践できる。

○ コンサルテーションスキル

患者へ適切な初期対応を行い、専門的な処置・治療が必要な場合には、然るべき専門診療科への速やかな相談・依頼を実践できる。

○ コーディネーションスキル

各専門科医師、薬剤師、看護師、メディカルスタッフ、その他全てのスタッフとの連携を重視し、その調整者としての役割を実践できる。

○ ファシリテーションスキル

多職種協働による患者中心のチーム医療の活動を促進・実践できる。

○ マネジメントスキル

総合的な病院経営・管理の素養を身につけ、地域包括ケアシステムや日本全体の医療を考慮した病院運営を実践できる。

【研修方法】

研修は原則2年間で行う。ただし、「到達目標」を十分達成すると病院総合指導医及び病院管理者が認めた場合には、1年間研修期間を短縮することが可能である。

○ 外来診療研修（インテグレーションスキル、コンサルテーションスキル）

総合内科外来にて総合診療についての研修を行う。診断確定及び初期治療は原則として自らが実施し、その後、治癒または病院診療の終了（逆紹介を含む）までのプロセスを可能な限り担当する。

また、多様な疾病に対して、1日を通した外来診療を念頭に置き、患者の現在おかれている状況の把握、診察待ち時間の改善へのマネジメント、必要かつ十分な検査の選択と依頼、外来看護師等との連携、他科コンサルテーション、処方管理、患者・家族への説明等の診療の流れが、適切な初期対応とともに円滑に行えるよう努める。

○ 病棟業務研修（インテグレーションスキル、コンサルテーションスキル）

個々の患者の入院から退院までのプロセスを、患者の視点に立った診療計画のもと実践する。患者の入院期間全体を通じて効率的な検査・治療の日程を計画し、入院期間を適切に設定できる能力が求められる。必要に応じてカンファレンスを招集して、患者の社会的背景や心理面、倫理面を含めた多様な問題について討議する上でのリーダーとしての役割を務め、退院後の患者の療養場所の検討も率先して行う。

さらに病棟全体の患者のコントロールを行い、入退院、転院等を適切に行える能力を身につける。

○ チーム医療研修（コーディネーションスキル、コンサルテーションスキル）

研修病院が備えるチーム医療の活動（医療安全、ICT、NST、緩和ケア、口腔ケア、呼吸サポート、摂食・嚥下、褥瘡、退院支援、認知症等）のメンバーとして、定期的なラウンドやカンファレンス・研修会に参加する。研修の効率性の観点からは複数のチームに関わることが望ましい。特に、医療安全部門に関しては、インシデント・アクシデン

トの把握や対応策について具体的に学び、リスクマネージャーとしての役割を務める。ICT についてはチームの一員としての活動や院内感染対策委員会への出席などを通して学び、感染予防対策の指導のみならず、アウトブレイク時にも積極的な対応ができる能力を身につける。

○ 病院経営・管理、マネジメント研修（マネジメントスキル）

病院経営・管理の能力を身に付けるために、病院運営会議等への参加を通じて経営状況を把握し、病院が直面する問題点や課題解決の方法などに関する理解を深め、医療資源の適正かつ効率的活用を努める。

医療経営や病院マネジメントの一般的素養については、各種講習会・セミナー等への参加および病棟医の立場で病棟マネジメントを実践することにより習得する。

【研修の評価方法】

病院総合医が質の高い総合診療を誇りを持って行えるよう、その質を担保するために、日本病院会認定の「病院総合医育成プログラム基準」に沿った評価方法を用いて研修評価を行う。

1. 病院総合指導医及び病院管理者が、病院総合専修医個別のチェックリスト及び到達目標で示す 5 つのスキルに関するレポートを確認・評価し、日本病院会の病院総合医認定委員会へ提出する。
2. 日本病院会の病院総合医認定委員会は提出された評価内容について審査し、評価基準を満たしたと判断された場合は認定する。
3. 審査の結果、達成度が不十分と判断された場合は、期間を延長して研修を行い、また必要があれば自院外での研修を行った後、再申請する。

【研修スケジュール】

- ・最初の 1 年（短縮の場合は 6 ヶ月）は救急科に所属、救急外来を担当し、総合医としての研修を行う。残りの 1 年（短縮の場合は 6 ヶ月）は総合内科および副科（主に担当する総合内科入院患者のコンサルテーションを行う先の診療科として、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、血液化学療法科、膠原病・リウマチ内科、脳神経外科、外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、整形外科、歯科口腔外科 等）にて病棟医の研修を行う。
- ・研修中に臨床研修指導医講習会へ参加し、指導を担当する研修指導者の資格を得る。
- ・日本病院会認定病院総合医の取得をもって、本研修を修了する。
- ・日本病院会認定病院総合医の取得後は、病院総合医として地域包括ケアシステムを支える当院での中心的役割を担う。

【週間スケジュール】

1. 救急科研修

	月	火	水	木	金	土
08:00	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス
08:30	重症回診	重症回診	重症回診	重症回診	重症回診	重症回診
午前	ICU 診療・ 救急搬送対応	ICU 診療・ 救急搬送対応	ICU 診療・ 救急搬送対応	ICU 診療・ 救急搬送対応	ICU 診療・ 救急搬送対応	ICU 診療・ 救急搬送対応
午後	救急外来	救急外来	救急外来	救急外来	救急外来	救急外来
16:00	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	

◆全時間帯において、院内急変患者に対応する（RRS）

◆救急外来当直 平日宿直：1回/月、土日の日直・宿直：1回/月

◆ICU当直 平日宿直：1回/月、土日の日直・宿直：1回/月

- ・多様な病態に対応できる幅広い知識や診断・治療を習得するために、以下に示す疾患・病態における診察・検査・治療・処置を経験する。

○ 当院で経験可能な疾患・病態

- (1) 以下に示す一般的な症候に対し、臨床推論に基づく鑑別診断および、他の専門医へのコンサルテーションを含む初期対応を適切に実施し、問題解決に結びつける経験をする。

ショック	急性中毒	意識障害	全身倦怠感	心肺停止
呼吸困難	身体機能の低下	不眠	食欲不振	体重減少・ るいそう
体重増加・肥満	浮腫	リンパ節腫脹	発疹	黄疸
発熱	認知脳の障害	頭痛	めまい	失神
言語障害	けいれん発作	視力障害・視野狭窄	目の充血	聴力障害・耳痛
鼻漏・鼻閉	鼻出血	嘔声	胸痛	動悸
咳・痰	咽頭痛	誤嚥	誤飲	嚥下困難
吐血・下血	嘔気・嘔吐	胸やけ	腹痛	便秘異常
肛門会陰部痛	熱傷	外傷	褥瘡	背部痛
腰痛	関節痛	歩行障害	四肢のしびれ	肉眼的血尿
排尿障害（尿失禁・排尿困難）		乏尿・尿閉	多尿	不安
気分の障害（うつ）				

- (2) 以下に示す一般的な疾患・病態について、必要に応じて他の専門医・医療職と連携をとりながら、適切なマネジメントを経験する。

貧血	脳・脊髄血管障害	脳・脊髄外傷	脳変性疾患	脳炎・脊髄炎
一次性頭痛	湿疹・皮膚炎群	蕁麻疹	薬疹	皮膚感染症
骨折	脊柱障害	心不全	狭心症・心筋梗塞	不整脈
動脈疾患	静脈・リンパ管疾患	高血圧症	呼吸不全	呼吸器感染症
閉塞性・拘束性肺疾患		異常呼吸	胸膜・縦隔・横隔膜疾患	
食道・胃・十二指腸疾患		小腸・大腸疾患	胆嚢・胆管疾患	肝疾患
脾臓疾患	腹壁・腹膜疾患	腎不全	全身疾患による腎障害	
泌尿器科的腎・尿路疾患		妊婦・授乳婦・褥婦のケア		
女性生殖器およびその関連疾患		男性生殖器疾患	甲状腺疾患	糖代謝異常
脂質異常症	蛋白および核酸代謝異常		角結膜炎	中耳炎
急性・慢性副鼻腔炎		アレルギー性鼻炎	認知症	依存症
気分障害	身体表現性障害	ストレス関連障害・心身症		不眠症
ウイルス感染症	細菌感染症	膠原病とその合併症		中毒
アナフィラキシー	熱傷	小児ウイルス感染	小児細菌感染症	小児喘息
小児虐待の評価	高齢者総合機能評価	老年症候群	維持治療機の悪性腫瘍	
緩和ケア				

○ 当院で経験可能な診察・検査等

(1) 身体診察

- ① 成人患者への身体診察（直腸、前立腺、陰茎、精巣、鼠径、乳房、筋骨格系、神経系、皮膚を含む）
- ② 高齢患者への高齢者機能評価を目的とした身体診察（歩行機能、転倒・骨折リスク評価など）や認知機能検査（HDS-R、MMSE など）

(2) 検査

- ① 各種の採血法（静脈血・動脈血）
- ② 簡易機器による血液検査・簡易血糖測定・簡易凝固能検査、採尿法（導尿法を含む）
- ③ 注射法（皮内・皮下・筋肉・静脈注射・点滴・成人及び小児の静脈確保法、中心静脈確保法を含む）
- ④ 穿刺法（腰椎・膝関節・肩関節・胸腔・腹腔・骨髄を含む）
- ⑤ 単純X線検査（胸部・腹部・KUB・骨格系を中心に）
- ⑥ 心電図検査・ホルター心電図検査・負荷心電図検査
- ⑦ 超音波検査（腹部・表在・心臓）
- ⑧ 生体標本（喀痰、尿、腔分泌物、皮膚等）に対する顕微鏡的診断
- ⑨ 呼吸機能検査
- ⑩ 消化管内視鏡（上部、下部）
- ⑪ 造影検査（胃透視、注腸透視、DIP）

○ 当院で経験可能な治療手技や処置

(1) 治療手技・小手術

簡単な切開・異物摘出・ドレナージ	止血・縫合法及び閉鎖療法
簡単な脱臼の整復、包帯・副木・ギプス法	局所麻酔（手指のブロック注射を含む）
トリガーポイント注射	関節注射（膝関節・肩関節等）
静脈ルート確保および輸液管理（IVHを含む）	経鼻胃管及び胃瘻カテーテルの挿入と管理
導尿及び尿道留置カテーテル・膀胱瘻カテーテルの留置及び交換	
褥瘡に対する被覆治療及びデブリードマン	在宅酸素療法の導入と管理
人工呼吸器の導入と管理	輸血法（血液型・交差適合試験の判定を含む）
各種ブロック注射（仙骨硬膜外ブロック・正中神経ブロック等）	
小手術（局所麻酔下での簡単な切開・摘出・止血・縫合法滅菌・消毒法）	
包帯・テーピング・副木・ギプス等による固定法	穿刺法（胸腔穿刺・腹腔穿刺・骨髄穿刺等）
鼻出血の一時的止血	耳垢除去、外耳道異物除去
咽喉頭異物の除去（間接喉頭鏡、上部消化管内視鏡などを使用）	

2. 病棟研修（総合内科および副科）

	月	火	水	木	金	土
08:00	カンファレンス	カンファレンス	MKSAP 勉強会	カンファレンス	カンファレンス	
午前	総合内科総回診	担当患者病棟の病棟医業務、および外来診療	担当患者病棟の病棟医業務、および外来診療	担当患者病棟の病棟医業務、および外来診療	担当患者病棟の病棟医業務、および外来診療	担当患者病棟の病棟医業務、および外来診療
午後	担当患者病棟の病棟医業務	担当患者病棟の病棟医業務	担当患者病棟の病棟医業務	担当患者病棟の病棟医業務	担当患者病棟の病棟医業務	勉強会
夕方	症例検討会 (消内・循内・神内・脳外・整形)、勉強会	症例検討会 (呼内・血内・外科・泌尿器)、勉強会	症例検討会 (神内リハ・脳外リハ・皮膚・歯口)、勉強会	症例検討会 (呼内・消内・外科・膠原病腎内・耳鼻)、勉強会	症例検討会 (総合内科・糖内)、勉強会	

◆救急外来当直 平日宿直：1回/月、土日の日直・宿直：1回/月

◆ICU当直 1回/月

◆勉強会 臨床研修医、専攻医の指導も行う

・医師としての倫理観・人間性・社会性をもって包括的な診療が行えるように、以下に示す業務を病棟医として実践する。

(1) 救急科で学んだ総合医としてスキルを生かし、担当病棟にて入院患者の健康管理および急変時のプライマリ・ケアを実践する。

- (2) 主治医とはもちろん、他科診療科や看護師をはじめとする入院患者と関わる全ての医療スタッフとの連携を重視し、コーディネーター的役割を担う医師として、病棟業務に専任する。
- (3) 患者急変時は初期対応に主眼をおき、専門性が必要な判断や治療が必要と考えられた場合には、然るべき診療科に速やかにコンサルテーションを行う。
- (4) 総合内科のみならず、コンサルテーションを行った先の診療科の症例検討会にも参加し、連携診療のマネジメント力の養成に努める。
- (5) 常に患者中心の医療の実践を念頭におき、多職種協働によるチーム医療の推進に努める。
- (6) 総合医として救急外来で診療を行い、包括的プライマリ・ケアの実践を行う。
- (7) 各種多職種カンファレンス、チーム医療カンファレンス、委員会へ積極的に参加し、チーム医療の実践に努める。
- (8) 退院支援カンファレンスにも積極的に参加し、包括ケアのマネジメント力養成に努める。
- (9) 研修後半では、経営会議に出席し、医療を取り巻く様々な課題や問題点についての議論に参加し、病院運営の基本的な知識を習得する。

○ 研修・セミナー

以下と関連のある講習会やセミナーへ参加し、適切な医療経営・管理能力を習得する。

- ・医療経営管理学、医療政策学、医療経営学、医療経済学、医療コミュニケーション学、医療保険法、医療財政学、地域医療に関するセミナー、リーダーシップ理論、マネジメント学、医療経営管理やチーム医療に関するセミナー

病院総合専修医 氏名 :

- ※1 病院総合専修医が経験する内容のうち、日本病院会が「◎=必須、○=推奨」と指定する内容を示しています。
- ※2 ※1に従って、研修施設個別の設定を行ってください。推奨項目からは各スキル毎に、3項目以上を必須項目として設定してください。また、病院の特色を踏まえた個別項目があれば追加してください。
- ※3 病院総合専修医が経験した内容にチェックをしてください。病院総合医認定の際に必要となります。
- ※4 病院総合医認定申請時に病院総合指導医または病院管理者が確認をしてから提出してください。
- ※5 症候・症例については、可能な限り直近で経験した年（西暦）と経験した施設名を記載してください。

1. 多様な病態に対応できる幅広い知識や診断・治療によって包括的な医療を展開・実践できる。(インテグレーションスキル)				
2. 患者への適切な初期対応を行い、専門的な処置・治療が必要な場合には、然るべき専門診療科への速やかな相談・依頼を実践できる。(コンサルテーションスキル)				
経験する内容	※1	※2 設定	※3 経験	※4 確認
高い倫理観、人間性、社会性をもって総合的な医療を展開する。	◎	◎		
総合診療科もしくはそれに準ずる機能を有する診療部門において外来診療を担当する。	◎	◎		
診断確定及び初期治療は原則として自らが実施する。	◎	◎		
治療または病院診療の終了（逆紹介を含む）までのプロセスを可能な限り担当する。	◎	◎		
多様な疾病に対して、1日を通した外来診療を念頭に置き診療を行う。	◎	◎		
患者の入院期間全体を通じて、効率的な検査・治療の日程を計画し、入院期間を適切に設定する。	◎	◎		
患者の社会的背景、心理面、倫理面を含めた多様な問題について討議し、退院後の患者の療養場所の検討を行う。	◎	◎		
病棟全体の患者のコントロールを行い、入退院、転院等を適切に行う。	◎	◎		

3. 各専門科医師、薬剤師、看護師、メディカルスタッフ、その他の全てのスタッフとの連携を重視し、その調整者としての役割を実践できる。(コーディネーションスキル)				
経験する内容	※1	※2 設定	※3 経験	※4 確認
定期的なラウンドやカンファレンス・研修会に参加する。	◎	◎		
患者の状況に応じた判断に基づき、必要な職種を招集し適切な対応を行う。	◎	◎		
各種カンファレンスの進行役を務める。	◎	◎		
患者の病態改善について常に意識して話し合える職場環境を作る。	◎	◎		
臨床倫理の諸問題について常に意識して話し合える職場環境を作る。	◎	◎		
医療スタッフ全体の現況を把握し、適切な対応を助言する。	◎	◎		
退院前あるいは転院後カンファレンスを計画し、地域包括的なチーム医療の活動を促進する。	◎	◎		
退院後、在宅医療が必要な患者に、必要な介護が受けられる環境設定を行う。	◎	◎		

4. 多職種協働による患者中心のチーム医療の活動を促進・実践できる。(ファシリテーションスキル)				
経験する内容	※1	※2 設定	※3 経験	※4 確認
医療安全管理チームへの参加	◎	◎		
感染制御チームへの参加	◎	◎		
栄養サポートチームへの参加	○	○		
緩和ケアチームへの参加	○	○		
口腔ケアチームへの参加	○	○		
呼吸サポートチームへの参加	○	○		
摂食・嚥下チームへの参加	○	◎		
褥瘡対策チームへの参加	○	○		
退院支援チームへの参加	○	◎		
認知症サポートチームへの参加	○	◎		

5. 総合的な病院経営・管理の素養を身につけ、地域包括ケアシステムや日本全体の医療を考慮した病院運営を実践できる。(マネジメントスキル)				
経験する内容	※1	※2 設定	※3 経験	※4 確認
次に示す講習会・セミナーに参加し、適切な病院経営・管理の能力を身につける。				
臨床研修指導医講習会	◎	◎		
医療安全管理者養成講習会	○	◎		
医療安全管理者養成講習会 継続研修	○	○		
感染対策に関するセミナー	○	◎		
栄養管理に関するセミナー	○	○		
マネジメントに関するセミナー	○	◎		
幹部職員に対するセミナー	○	○		
地域医療に関するセミナー	○	○		
チーム医療に関するセミナー	○	○		
医療経営に関するセミナー	○	○		
経営管理に関するセミナー	○	○		

病院総合専修医 氏名 :

- ※1 病院総合専修医が経験する内容のうち、日本病院会が「◎=必須、○=推奨」と指定する内容を示しています。
- ※2 ※1に従って、研修施設個別の設定を行ってください。推奨項目からは各スキル毎に、3項目以上を必須項目として設定してください。また、病院の特色を踏まえた個別項目があれば追加してください。
- ※3 病院総合専修医が経験した内容にチェックをしてください。病院総合医認定の際に必要となります。
- ※4 病院総合医認定申請時に病院総合指導医または病院管理者が確認をしてから提出してください。
- ※5 症候・症例については、可能な限り直近で経験した年（西暦）と経験した施設名を記載してください。

2. 患者への適切な初期対応を行い、専門的な処置・治療が必要な場合には、 然るべき専門診療科への速やかな相談・依頼を實踐できる。（コンサルテーションスキル）					
経験する内容	※1	※2 設定	※3 経験	※4 確認	※5 経験年（施設名）
血液・造血器・リンパ網内系疾患（貧血、白血病、悪性リンパ腫、出血傾向、紫斑病等）	◎	◎			
神経系疾患（脳・脊髄血管障害、脳・脊髄外傷、脳変性疾患、脳炎・髄膜炎、一次性頭痛等）	◎	◎			
皮膚系疾患（湿疹・皮膚炎、蕁麻疹、皮膚感染症等）	◎	◎			
運動器（筋骨格）系疾患（骨折、関節・靭帯損傷、脊柱障害等）	◎	◎			
循環器系疾患 （心不全、虚血性心疾患、心筋症、不整脈、弁膜症、動脈疾患、静脈・リンパ管疾患、高血圧症等）	◎	◎			
呼吸器系疾患 （呼吸不全、呼吸器感染症、閉塞性・拘束性肺疾患、肺循環障害、異常呼吸、胸膜・縦隔・横隔膜疾患、肺癌等）	◎	◎			
消化器系疾患 （食道・胃・十二指腸疾患、小腸・大腸疾患、胆嚢・胆管疾患、肝疾患、膵臓疾患、横隔膜・腹壁・腹膜疾患等）	◎	◎			
腎・尿路系疾患（腎不全、原発性糸球体疾患、泌尿器科的腎・尿路疾患等）	◎	◎			
内分泌・栄養・代謝系疾患（視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患、糖代謝異常、脂質異常等）	◎	◎			
感染症（ウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症、性感染症、寄生虫感染症等）	◎	◎			
免疫・アレルギー疾患（膠原病、アレルギー疾患等）	◎	◎			
物理・化学的因子による疾患（中毒、アナフィラキシー、環境要因による疾患、熱傷等）	◎	◎			
加齢と老化とリハビリテーション（高齢者総合機能評価、老年症候群等）	◎	◎			
悪性腫瘍（維持治療期の悪性腫瘍、緩和ケア等）	◎	◎			

レポートの作成				
経験する内容	※1	※2 設定	※3 経験	※4 確認
到達目標で示す5つのスキルについて、次の報告・作成を行う。				
インテグレーションスキル（包括的診療の實踐から学んだ知見と考察）	◎	◎		
コンサルテーションスキル（適切なコンサルテーションの實踐から学んだ知見と考察）	◎	◎		
コーディネーションスキル（医療スタッフ間の調整者としての役割から学んだ知見と考察）	◎	◎		
ファンリテーションスキル（多職種協働による患者中心のチーム医療活動の促進・實踐から学んだ知見と考察）	◎	◎		
マネジメントスキル（各種講習会・レポートや自院の運営会議等から学んだ病院経営・管理に関する知見と考察）	◎	◎		